

新生美術館基本計画検討委員会 専門部会（第1回）会議録（概要）

日 時：平成24年7月22日（日） 14:30～16:00

場 所：コラボしが21 大会議室

出席委員：牛尾委員長、井上委員、佐野委員、高梨委員、布野委員、南委員（五十音順）

欠席委員：奥委員、河島委員、田端委員、長谷川委員、保坂委員（五十音順）

【議事要旨】

■部会長選出

- ・部会にて、牛尾郁夫氏（成安造形大学学長）を部会長に選出。

議 事

- （1）専門部会の進め方について
- （2）新生美術館の使命と基本方針、事業活動について

○布野委員

- ・ 資料1-1について、5ページまでと、6ページ、7ページからの流れがまだしっくりこない。滋賀県全体で「美の滋賀」を発信していくというポリシーと、新生美術館の間に何かあると思う。各地の拠点のネットワークがあって、その中核的役割を新生美術館が担うという筋道をつけていただきたい。その方が、新生美術館の機能がわかりやすくなると思う。
- ・ これはあえて問題提起として申し上げるが、調査機能は必要か。新生美術館の検討には関連機関の統合という背景もあると推測する。新生美術館の所管がどこで、どういう部署が担うのかが見えない。5つの機能をどう発揮していくのか、背景整理が必要かと思う。

○事務局

- ・ 新生美術館がどこの所管になるのかは、この先どうなるかわからない部分であるが、現在は県庁内では、「美の滋賀」発信推進室が中心となり、政策に落とし込めるようなことを来年度の予算、あるいは事業に向けて考えているところで、関連のある部署と連携して検討している。
- ・ 調査研究機能については、県の中での大きな意味では学術振興の部門になるが、この資料では「美術館にとっての調査研究機能」とご理解いただきたい。現在の近代美術館も所蔵作品を中心にそれぞれの分野で研究されているし、その研究は当然、展示機能あるいは教育機能に還元されてくる形になると思う。仏教美術に関して言えば、これまでの琵琶湖文化館の機能を引き継いで研究機能を果たしていく。あるいはアール・ブリュットについてはこれまでに無い分野なので、少なくとも資料収集や整理をしっかりとっていくことになる。

○布野委員

- ・ 私自身は研究者であり、研究者の立場を大事にしたいと思う。説得力を持ったフレームにしたほうが良いと思って発言したつもりと理解してもらいたい。
- ・ 県全体としての戦略みたいな、「美の滋賀」発信機能というのが描かれていて、その中で新生美術館はこの部分を受け持つと位置づけておかないと、予算・人員がつかなくなると思う。

○南委員

- ・ 美術館のネットワークづくりが重要。滋賀県は琵琶湖があるので1周すると意外と時間がかかる。各地域にサテライトスペースというようなものを設けて、そこと連動して活動を行うということも必要かと思う。
- ・ 作品を展示するだけでなく、作品をつくり発信していく「メディア・センター」的なものが本来はとても重要。作った方がいいが、情報発信できないというのが最も恐れることで、ある程度情報編集能力のあるスタッフが常駐しているとか、印刷物やウェブサイトの広報活動の具体的な進行を実行できるような仕組みというのが本来はあればいいと思う。

○高梨委員

- ・ ネットワークについて、滋賀県にはレベルの高い美術館・博物館があるので、そこで働く方々と連携を取れるような体制が取れるといいと思っている。ただ、財政の問題で四苦八苦しているのも現実で、その点も踏まえて将来を考えていくとなると、ネットワークをつくと同時に、機能分担を考えていく必要がある。各館の学芸員等との連携を取っていける組織がいい。
- ・ 調査・研究を一括して話をしてしまう面があるが、基本的に調査と研究というのは、多分違うことで、美術館や博物館は、そういう部分での調査は非常にたけているところがあるが、最近の研究は非常に高度で精密なことを求めているため、どう補完していくかが課題だと思う。

○佐野委員

- ・ 書いてあることは立派だが、これだけのものを盛り込めるか、土地利用の限界から考えると疑問。この敷地だけでなく、どこかの部分は仮想空間、あるいは屋外展示にもっていくことも含めて検討してはどうか。
- ・ 最終的に近代美術館に何を残し、かつ機能分担という形でどう切り分けるのが具体的にないといけないといけないだろう。近代美術館の現在の場所に残った部分が、余りにばらばらだと、魅力をなくしてしまうという点が気になる。
- ・ 滋賀県の入り口は大津駅になると思うが、大津駅から美術館へのイメージが広がらない。美術館に行く交通手段や顔となる駅での対応についても検討が必要ではないか。

○井上委員

- ・ 研究に関する技術、機器は近年、非常に進んでいて、機械がないとできない部分もあり、県内でできるだけ確保していくような形が望ましいのではないかな。
- ・ 仏教美術、神道美術を支えている技術、作品を残すための技術、つくるための技術を、作品を理解するための背景として全体を取り上げていくと、近代、現代等他分野との連携も出てくる可能性がある。
- ・ 休館中の琵琶湖文化館に寄託していただいている所有者がたくさんいて、尊重していく必要がある。仏像なら住職さんの了解だけでなく、檀家さんを含め、多くの関係者を尊重する対応

が必要という滋賀県特有の事情もある。

- ・ 地震への対応では、いざ何かあった時に、たとえば県警や消防署との連携等も必要ではないかとの意見が、琵琶湖文化館に県民から寄せられたことがある。

○南委員

- ・ この部会は具体的にどうしていくかを検討する部会だと思うのだが、どの程度まで対応が可能なのか。プランだけであれば、いくらでも立てられる。
- ・ たとえば新しい人材をどの程度集めて、というところは予算と関係するが、その着地点が見えにくい。具体的に動ける、これだったらできるだろうというところを探っていく必要があるのではないかと思う。

○布野委員

- ・ 仮に大津がエントランスとなると、都市計画との関係も出てくる。ただ、過去の検討ではなかなかうまくいかなかった。
- ・ 駅前に顔、出店をつくってアピールするようなものを、あるいは新幹線の駅である米原に「美の滋賀」発信の顔となるものをつくるなど、窓口機能として何かつくることも検討できるのではないか。市との連携、空きスペースの利用とか、リアリティーのある計画を10年くらいで作っても良いのでは。
- ・ 近代美術館は現状もスペースに余裕があるとは思えないし、琵琶湖文化館の収蔵を持ってくるスペース、メディア戦略のための要員等、その積み上げになってくると思う。

(3) 今後の検討の方針について

○高梨委員

- ・ 近代美術館の立場から申し上げると、交通アクセスは厳しい。バスの便数が多いが、バス停からは遠い。美術館の近くまでバスを回す道が当初計画されていたので、図書館の前までは車道と歩道が分かれているが、実際はバスは走っていない。
- ・ 駐車場は図書館との共有なので、秋季など人が多いときは、駐車場は満杯である。
- ・ 近代美術館は開館以来、改修・改築できていない。この機に、施設を改善する必要がある。例えば今、成安造形大学との連携による展覧会を企画している。インスタレーションで植物を使いたいという要望があるが、そのすぐ後には石山寺の国宝、重文を展示する予定。そうすると、たとえば植物を燻蒸しないといけないのかというような、ありえないような話になっている。
- ・ 文化庁の公開承認施設として管理を厳しくというと、若い方の新しい表現には制約が出てくる。古典的現代美術と、新しい若い方がチャレンジされる現代美術とでも違う。
- ・ 逆に現代美術の若い作家の人には、現在の企画展示室は評判がよくない。常に更新できるような広い空間が欲しいという意見も多い。我々が考える良い設備が、必ずしも若い作家にとっては良い設備ではないのかもしれないと思う。
- ・ そういった点、施設整備は難しい。展示室、収蔵庫を分ける必要もある。

○布野委員

- ・ 建築デザインについては、インパクトがあってデザインだけでも人が呼べるものにするべき。施設はなかなか新築できない時代になっているので、工夫のあるものをつくるべきだと思う。

○佐野委員

- ・ 現在の近代美術館の企画展示室は、公開承認施設的な考え方からすると使いにくい。途中に開放的な空間を挟んでおり、現在の企画展示室等も使い方を変えて、公開施設のほうを新たに建てたほうがいいのではないか。
- ・ ある程度エリアも分けて考え、「神と仏の美」のように制限がかかってくる部分は、収蔵庫も展示室もかつちりと、展示室もそんなに大ぶりなのを求める必要はないのでは。国宝を展示できるレベルをキープすべき。

○井上委員

- ・ 琵琶湖文化館は50年以上活動してきた中で、たくさんの寄託を受け、県民の寄贈もある。まずは一括で全部移転をしてほしい。周辺のいろいろな資料、写真も今は撮れないようなものがあるので、そういう二次資料も文化財等の中に含めていくのがいいのではないか。
- ・ 県展の開催や若い作家の現代美術の展示と、国宝・重文とを同じ企画展示室でというのは難しいと思う。

○高梨委員

- ・ 現在の近代美術館では、ある程度安定した収蔵ができていると思う。建築費用を考えると、今の財政状況から見て、新たに収蔵庫を建てた場合に、現実問題として現在のものを超える理想的なものになるかは疑問。

○佐野委員

- ・ 琵琶湖文化館から近代美術館に収蔵品を移すと、今の収蔵庫に全て収まるのか。増築して収蔵庫を建てる必要が出てくるのであれば、建築技術の進歩からいうと、いいものを新設することは可能だと思う。

○井上委員

- ・ 琵琶湖文化館は50年前の博物館施設の考え方で建った博物館で、非常に時代遅れになってしまっている。近代美術館も30年前の考え方で建てられた建物であり、あと20年経ったら、建て替えの話になりかねない。そういうリスクを、美術品の中でも脆弱な文化財に経験させるのが本当にいいのかどうか、考える必要もある。

○佐野委員

- ・ アール・ブリュットは収集方針として、継続的にコレクションができるものなのか。
- ・ ある程度仮想空間の中をつないでいったほうがいいのか、それとも、物としてある程度充実し、それが新生美術館の一つの柱としての魅力や、県外客のメインにすべきなのかどうか。

○事務局

- ・ アール・ブリュットは県内に魅力的な作品群があることから、昨年度、アール・ブリュット発信検討委員会等でご議論いただき、県民の財産として守って、県内外に発信していくために近代美術館で扱うという方針で提言をいただいた。
- ・ もともと、滋賀県に近江学園を中心とした福祉の造形活動から生まれたアール・ブリュット

作品がたくさんあり、そういった魅力を守っていく、あるいは伝えていくというのが県として重要な施策と考えている。

以上